

年代別からみた生活環境評価の相違点とその要因に関する研究
- 佐伯市における生活環境・圏域に関する研究 その2 -

正会員 椎葉 憲亮*¹ 同 佐藤 誠治*² 同 小林 祐司*³
同 姫野 由香*⁴ 同 野口 浩平*¹ 同 寺田 充伸*¹

地区とコミュニティ 都市機能 小規模集落
住民意識 居住機能

1. はじめに

その1では単集計による地域ごとの特徴を把握し、大字単位での生活環境の違いから集落の類型化を行った。そして、総合評価にどのような要因が影響しているのかを因子分析を用いて明らかにした。

本稿では、アンケート集計結果より年代別(20~30歳代, 40~50歳代, 60歳代以上)からみた生活環境評価の相違点について考察を行い、総合評価にどのような要素が影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究でも、その1で用いたアンケート調査結果を基に分析を行う。アンケート結果より得られた地域の生活環境評価を年代別に集計・比較し、相違点を明らかにする。また、現在の生活に関する不満や要望¹や定住意向とその理由²を併せて考察する。

次に、地域の生活環境評価において各年代で重回帰分析を行い、どの項目が総合評価に影響を与えているのかを把握し、各年代の生活環境評価の相違点とその要因を明らかにする。

サンプルは回答者で、全952サンプルが得られた。

3. 地域の生活環境評価について

地域の生活環境についてどのように感じているか、アンケートを行い、質問16項目と総合評価項目の計17項目

目において「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらでもない・わからない」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の5段階で評価した結果を考察する。考察を行う際、質問項目ごとに数値がマイナスであれば評価が低く、プラスであれば評価が高くなるように-2, -1, 0, +1, +2のポイントを与え集計した。

全サンプルを20~30歳代, 40~50歳代, 60歳代以上の3つの年代に集約し、17項目において各年代の平均値, 標準偏差, 最大値と最小値の差であるレンジをまとめたものを表1に示す。また、5基盤に集約した結果を表2に示す。

まず、年代別の考察を行う。20~30歳代の特徴としては番号1, 2, 3以上3項目が他の年代と比較して評価が高く、番号4, 5以上3項目が他の年代と比較して評価が低い。40~50歳代の特徴としては、番号1, 2, 3以上3項目が他の年代と比較して評価が低い。60歳代以上の特徴としては、番号1, 2, 3, 4以上5項目が他の年代と比較して評価が高い。

次に、16項目を5つの基盤に集約して各年代の特徴を把握する。表2より、移動基盤と経済基盤においてはすべての年代で評価が低く、環境基盤においてはすべての年代で評価が高い。また、定住基盤においては40~50歳代で評価が低く、各年代で評価にばらつきがみられる。コミュニティ基盤においては20~30歳代で評価が低い。

以上の結果より、地域の生活環境については、各年代で相違点があることが明らかになった。各年代の共通点

表1 年代別5段階評価平均得点(17項目)

年代別平均評価得点		20~30歳代	40~50歳代	60歳代以上	標準偏差	レンジ
定住基盤	上下水道などの基盤整備が不十分である	0.327	-0.188	0.093	0.258	0.515
	道路などの整備が不十分である	0.212	-0.263	0.074	0.244	0.474
移動基盤	バスなどの公共交通が少ない	-0.846	-0.729	-0.470	0.193	0.376
	通勤・通学が不便である	-0.058	-0.404	-0.212	0.173	0.346
	買い物不便である	0.058	0.016	-0.138	0.103	0.196
	病院などの医療施設に不安がある	-0.519	-0.580	-0.268	0.165	0.312
	老人福祉施設に不安がある	-0.077	-0.157	-0.191	0.058	0.114
	子供の教育に不便や不公平を感じる	-0.212	-0.239	-0.138	0.052	0.101
経済基盤	生活をしていくのに経済的に厳しい	-0.442	-0.737	-0.662	0.153	0.295
環境基盤	自然環境が良い	1.269	1.208	0.980	0.152	0.289
	住み心地が良い	0.731	0.808	0.758	0.039	0.077
コミュニティ基盤	地域内のまとまりがある	0.173	0.345	0.454	0.142	0.281
	住んでいる人の気質や人情が良い	0.500	0.549	0.634	0.068	0.134
	人付き合いに気を使う	0.058	0.176	-0.098	0.137	0.274
	地域の活動や集会に参加することが楽しい	-0.462	-0.051	0.172	0.321	0.634
	祭り・伝統行事が盛んである	-0.442	-0.008	-0.180	0.219	0.434
総合評価		0.192	0.239	0.285	0.046	0.093

としては、交通機関や利便施設立地等の評価が低く、地域の環境は評価が高いことが挙げられる。また、20~30歳代は、地域内でのコミュニティ基盤が低いこと、40~50歳代と60歳代以上では比較的類似した環境認識を持っていることが明らかになった。

表2 年代別5段階評価平均得点(5基盤)

平均評価得点	20~30歳代	40~50歳代	60歳代以上	標準偏差	レンジ
定住基盤	0.327	-0.188	0.093	0.258	0.515
移動基盤	-0.206	-0.337	-0.192	0.080	0.145
経済基盤	-0.442	-0.737	-0.662	0.153	0.295
環境基盤	1.000	1.008	0.869	0.078	0.139
コミュニティ基盤	-0.035	0.202	0.197	0.135	0.237
総合評価	0.192	0.239	0.285	0.046	0.093

4. 重回帰分析による各年代の特徴把握

ここでは、定住基盤、移動基盤、経済基盤、環境基盤、コミュニティ基盤の5変数を独立変数、総合評価を従属変数として重回帰分析(ステップワイズ法)を行うことにより、総合評価にどの要素が影響しているかを年代別に把握する。重回帰分析の結果を表3に示す。各年代の重相関係数は0.5以上となっている。

コミュニティ基盤は各年代で高い値を示しており、総合評価に最も影響を与えていることがわかる。環境基盤もすべての年代で比較的高い値を示しており、総合評価への影響が比較的高い。40~50歳代と60歳代以上では移動基盤が総合評価に影響を与えている。

表3 重回帰分析の結果

質問項目	標準化係数		
	20~30歳代	40~50歳代	60歳代以上
定住基盤			
移動基盤		0.154	0.176
経済基盤			
環境基盤	0.236	0.183	0.174
コミュニティ基盤	0.677	0.474	0.417
重相関係数R	0.792	0.622	0.576
調整済みR ² 乗	0.612	0.380	0.328
有意確率	0.00	0.00	0.00

表8 年齢別の相違点

年齢別の相違点	20~30歳代	40~50歳代	60歳代以上
生活環境		定住基盤	
		移動基盤	
		経済基盤	
		環境基盤	
		コミュニティ基盤	
不満や要望	買い物近くでほしい		
	病院が近くに出来てほしい		
		鳥獣被害に困っている	
		若者や子供を増やしたい	
定住意向		道路・上下水道を整備してほしい	
		住み続けたい	
住み続けたくない理由	住み続けたくない		
	わからない		
		自然が豊か	
住み続けたくない理由		愛着がある	
		家族と住むため	
		生活するのに不便	
		雰囲気が合わない	
		家族形態の変化	
重回帰分析		経済的な理由	
		病気など体調が不安	
		移動基盤	
		環境基盤	
		コミュニティ基盤	

生活環境については評価値がプラス、は評価値がマイナスであることを表す。■は大きな特徴、関係がない項目である。重回帰分析については最も高い影響があることを示す。

5. まとめ

本稿では、アンケート集計結果より分析を行い、年代別の生活環境評価の相違点とその要因を明らかにした。総括として、地域の生活環境評価と重回帰分析の結果に併せて現在の生活に関する不満や要望、定住意向とその理由について年代別の相違点を表4に示す。

まず、年代間で共通している点についてまとめる。40~50歳代と60歳代以上の特徴としては、鳥獣被害に困っているという要望が多い。住み続けたい理由として、愛着があるという回答が多い。住み続けたくない理由として、病気など体調が不安であるという回答が多い。総合評価に移動基盤が影響している等、4つの共通点が挙げられる。40~50歳代と60歳代以上では比較的類似した傾向がある。

次に、年代別の特徴についてまとめる。20~30歳代では、地域内コミュニティに関心が薄い。近くで買い物をしたい、病院が近くに出来てほしいという要望が多い。定住意向に関しては住み続けたくない・わからない、という人の割合が高い。住み続けたくない理由としては、家族形態の変化という回答が多い等、4つの特徴が挙げられる。

以上の結果より、環境基盤についてはすべての年代で高い評価を示していることから、現状を維持することが望ましい。また、生活環境の改善には地域のコミュニティ基盤を強くすること、公共交通や都市施設等の移動基盤を整備・充足させることが重要であるといえる。

【補注】 1, 2についての詳細は紙幅の都合上割愛する。

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士
 *3 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)
 *4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

*1 Graduate Student, Oita Univ.
 *2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 *3 Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 *4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng